

春岡村の伝説

春岡村の方言・訛言

春岡村の昔のことを調べた明治 34 年生まれの銭場佐一郎氏は、春岡村の方言・訛言についても著作『思い出の春岡』の中に記録しています。

《オカマゲェーロとかエボゲェーロ》

ガマガエル（あるいはヒキガエル）のことをこう呼んでいました。ガマはほかのカエルと違って後ろ足が発達していないのでジャンプが苦手で、夜になるとノタノタ歩いて移動します。耳腺（じせん）から毒、いわゆるガマの油を出します（ちなみに毒ヘビのヤマカガシはガマガエルを捕食することで、その毒を貯えて利用しているのだそうです）。

さて、見沼区の南中丸に中川坂上というバス停があります。この坂は通称「おかま坂」と呼ばれていて、こんな話が伝わっています。

《江戸時代、三代将軍家光がこのあたりで鷹狩りをしたときのおはなし》

家光の一行は見沼で船に乗り、中川を渡りました。すると船着き場にオカマガエルの大群が道いっぱいに集まってゲロゲロ鳴きわめいています。家光は気味悪がって船から降りることができません。するとお付きの大久保彦左衛門が家光に「これは将軍様を歓迎しているのです」と言い、オカマガエルには「もうわかったからお前たちも宿へ帰って休め」と言ったところ、オカマガエルはかき消すように立ち去りました。喜んだ家光は、この渡しを「おかま渡し」と呼ばせ、渡船運上御免の許しを出しました。その後享保の時代になると、見沼代用水ができて渡船場はなくなりましたが、いつしかこの坂を「おかま坂」と呼ぶようになったということです（『大宮市史5』）。



ガマガエルは早春、産卵期になると池などにたくさん集まって繁殖行動をくりひろげ、これを「カエル合戦」と呼んだりします。家光が見沼に来たのはちょうどこの季節だったのかもしれませんが。

東三番街 平山由喜